

原 寛*： 南瓜の分類と來歴 (二)

(有用植物の分類學的研究 IV)

Hiroshi HARA : Taxonomical Studies on Useful
Plants in Japan IV. *Cucurbita* (2).

現在南瓜類は重要な蔬菜として代用食として賞用され、製粉製果製飴等の加工用原料としても色々利用されて居る。栽培面積に對する生産力が豊かであり、その果實は澱粉糖分に富み且つ多期迄貯藏に耐える。又品種により飼料として用ひられる。種子も脂肪分多く、カロリー價高く、又驅虫劑として有効である。今後も品種による各々の特性を活かして廣く利用され栽培されるものと思ふ。

しかるに南瓜の和名は現在も可成り混亂して居るので、この際整理して各種に對する呼稱を統一したい。歴史的に見ると前述の如く最も古く書物に載つた和名はナンバンウリとアコダウリであるが、共に近年は殆ど用ひられない。次がボウブラで、この名は成形成圖説によれば蕃語ポンブーンの轉訛なりとあり、牧野博士はポルトガル船が長崎へ持ち來つた際ポルトガル語で Abobra 又は Abobora と云つたのを聞いて訛つたのであらうとされ、又ボンキンから訛つたとも云はれる。何れにしても Pepo と同義語であり、我國ではキクザタウナス形に用ひられたが、和名とするには餘り適當でない。その次が「倭漢三才圖會」(正徳 3 年, 1713)に載つてゐる南京瓜(ナンキン)、東埔寒瓜(カボチャ)、唐茄子(タウナス)である。ナンキンは中國南京から傳つたとしてつけられた名であり、カボチャは印度支那のカンボジア (Cambodia) に生じたものと考へて名付けたのである。又タウナスはその果形が茄子の形に似てゐるので中國から渡つた茄の意味で付けられた和名で、或は成熟した時の色が老熟した茄に似てゐるからだとも云はれる。これ等の名は其後「本草綱目啓蒙」卷 24 (享和 3 年 1803)、「成形成圖説」卷 27 (文化元年 1804)、「物品識名」(文化 6 年 1809)等に載り、殊にタウナス、カボチャの名は現今廣く一般に用ひられて居る。この名は古くは瓢箪形のものに用ひられ、牧野博士は今の西京形の南瓜を指して居ると解して居られるが、「成形成圖説」「本草圖譜」等の圖や説明を見ると現在の鹿々谷より小形で表面に凹凸の無い別品種の様に見える。私は *C. moschata* 種に對しては、南瓜類中早く日本に傳つて最も廣く栽培される様になつた種といふ意味で、日本南瓜(ニホンカボチャ)又は(ニホンタウナス)の名を採用したいと思ふ。併しこれに對して屢々用ひられる西洋南瓜(セイヤウタウナス)の名は、或時は、*C. Pepo* に或時は *C. maxima* に、又この兩種を含めた意味にも用ひられて頗る紛らわしいので止める事にしたい。*C. Pepo* に屬するものにはナタウリ、キントウグワ、キンシウリ、アメリカタウナス等の名がある。ナタウリの名は *C. maxima* に用ひられ

* 東京大學理學部植物學教室

た事もあり、又 Hubbard をナタワリカボチャと呼ぶ事があつてこれも混同し易い。*C. Pepo* 種は我國では時に栽培されて居るに過ぎず、蔬菜としては重要なものでないので、カザリカボチャ(カザリトウナス)の名を採用したら如何かと思ふ。この名は小形の硬い果實を結ぶ園藝品種に與へられたのであるが、これが *C. Pepo* の原始形に近くこの種の總稱として用ひても他と混同される事なく差支へないと思ふ。*C. maxima* は時にボンキンといふ名で呼ばれるが、これは多分英語の pumpkin の訛で、古い Miller の *Gardners Dictionary* には pumpkin と出て居るので尙その様に思はれる。併しこの pumpkin は *C. maxima* を指すよりは寧ろ *C. Pepo* 又は *C. moschata* をそう呼ぶのが普通である。又最近本種を西洋南瓜と呼ぶ人が多いが、前述の如く誤を起すから避けたい。牧野博士の日本植物圖鑑を見て、その和名から本種を *C. Pepo* と思ひ誤る人が案外多いのであるが、同書には本種は載つて居ない。日本で栽培されて居る本種の品種には色々な名がついて居るが、その内日本で最も有名になつた一品種にクリカボチャ(クリタウナス)があり、これを *C. maxima* 種に對する和名としたら一般にも通用し易く他種と區別するのに都合がよい。尙 Squash は米大陸原住民の言語から出た名で、米國では主に *C. maxima* に用ひられる。

終りに 3 種の各々に就て日本に栽培されてゐる品種を中心に分類を述べる。

1) カザリカボチャ(カザリタウナス) *Cucurbita Pepo* L. 1753. (*C. verrucosa* L. 1753. *Pepo vulgaris* & *verrucosus* Moench 1794. *C. Pepo polymorpha* Lamarck 1786).

この中には Field Pumpkin, Vegetable marrow, Table Queen 等の品種が入り、果實は大形のものが多く、果皮は軟かく、食用となり、莖は長い蔓になる。Field pumpkin は我國で稀に家畜用大南瓜といふ名で知られ、果實は大きくフットボール狀で浅い縦溝があり、果肉は筋つぼくて不味い。この様な形が學名上に於ける *C. Pepo* の基準形と考へられる。Table Queen も時に我國で栽培され、果は小形で先が尖りホボヰキ狀を呈し味は良い。甘露南瓜(錦南瓜、縮小南瓜)は更に小形で腰高の菊座形をなし、溝部は黒綠色他は黄白色の美しい斑紋があり味もよく、豊産早生で蔓は長く延びず、家庭園藝には面白い品種である。キンシウリ(金糸瓜、素麵南瓜) var. *fibropulposa* Makino 1928 は明治時代に中國から輸入されたもので、果は中大枕形で、ゆでると果肉がソウメン狀にほぐれ、それを酢の物等にして食用にする。var. *medullosa* Alefeld はこの様なものを含むのかも知れない。キントウグワ(金冬瓜、ベニトウグワ) var. *Kintogwa* Makino 1933 は既に「本草綱目啓蒙」「成形圖說」「本草圖譜」等に記載り、果はシロウリ狀で赤熟し美しく、古くから備前で栽培され主に飾りものにされた。アコダウリ(阿古太瓜、安古太瓜) var. *Akoda* Makino 1933 もこれに似て扁球形のものである。アコダウリの名は既に「多識編」に出で其後多くの事に載つて居るが、凡てが同じ品種を指したのか疑はしい。「本朝食鑑」には「大さ水瓜の如く、皮上稜有り」と記し、

「成形圖説」ではキクザタウナスをも混じてアコダウリと呼んでゐる。然るに「本草綱目啓蒙」では「正圓にしてひだなく皮色赤し」と述べてゐる。兩者とも現在では栽培されて居ない。一般に本種には經濟品種はない。

1a) カザリカボチャ (カザリタウナス, コナタウリ, カザリウリ) var. **ovifera** Alefeld 1866 emend Bailey 1929 (*C. ovifera* L. 1767)

莖細く、葉は小形で深裂し、果實、種子も小さく、果皮は非常にかたくなつて長く保存に耐えるが食用にならない。形や色彩は品種により實に變化富み、觀賞用にされる様々な形がある。疣があるものや、上半と下半でくつきりと色の異なるもの等興味深いものが多い。原始形に近いものと考へられ、自生の *C. texana* に極めて近い形がある。

1b) ウリカボチャ var. **Melopepo** Alefeld 1866 (*C. Melopepo* L. 1753, *C. Pepo* var. *condensata* Bailey 1900)

莖は立つか、横になつても長く匍ふ事はなく、果實は形は變るが果皮は概ね軟かく未熟なものを食用とする。果梗の先端は屢々擴大する。果は扁平なもの、フラスコ状のもの、圓筒状のもの等あるが、この類は我國には殆ど普及して居ない。

2) ニホンカボチャ (=ニホンタウナス 日本南瓜) **C. moschata** Poiret 1818. (*C. Pepo moschata* Duchesne 1786)

2a) キクザカボチャ (=キクザタウナス) var. **meloniformis** Makino 1912 (*C. melonaeformis* Carr. 1880, *C. Pepo* var. *melonaeformis* Makino 1908, *C. moschata* var. *japonica* Zhiteneva 1930, *C. moschata* subsp. *melonaeformis* Masamune et Yanagisawa 1941).

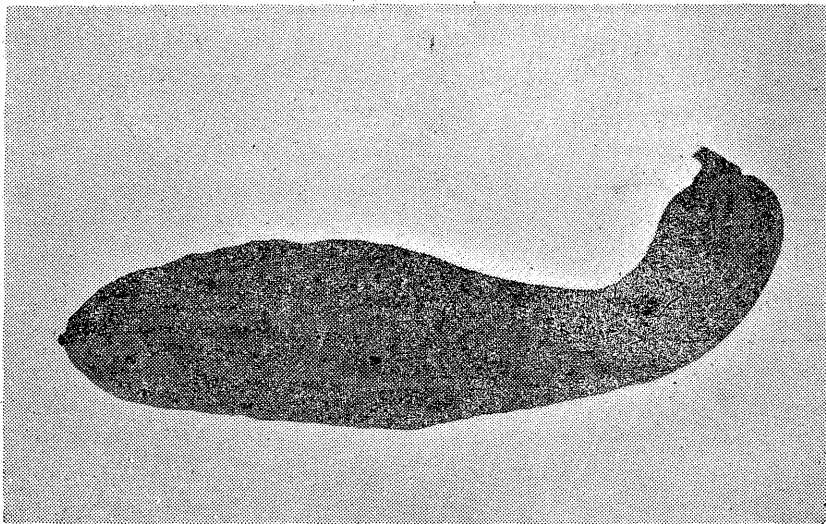
この種も果形は頗る變化に富んで居る。我國へも古く二三の異つた形が渡來したらしいが、最初に來たものより少し後れて入つた味のよい品種が廣く栽培されるに至つたものと思はれる。米大陸に於て本種に二つの系統が知られて居る事は前に記したが、それと我國へ入つた系統との關係は今後追及する積である。

我國で栽培されて居るものにも可成りの變異があつて、西ヶ原農事試験場の報告 (1921) では西京南瓜型、菊座南瓜型、三毛門南瓜型、岡山南瓜型、居木橋南瓜型、見付南瓜型の 6 に大別してある。併しこれ等は互に近縁のもので殆ど一つの系統に屬して居る様に考へる。恐らく初は三毛門型の様な、果が扁圓で縱溝があり瘤のない形がもとになり、一方には日本人の趣味に適した小形であるが、早生の菊座型 f. **yokohamana** Makino 1927 が發達し、一方には有瘤の味のよい居木橋型が出來たと思はれる。更に居木橋型から瘤が縦に條列をなして密に並んだ見付型即ちチリメンカボチャ f. **rugosa** Makino が出來、又果が瓢箪形をなす點で著しく見える西京型 f. **Toonas** (Mak.) Hara (*C. Pepo* var. *Toonas* Makino 1908, *C. moschata* var. *Toonas* Makino 1912) も恐らく居留木橋型から變形したものではないかと思ふ。古くタウナス、カボチャと呼び番南瓜にあてられた形が、今の鹿ヶ谷と同形のものが多少疑のある事は前述し

た通りである。白皮砂糖南瓜（白菊座）は近年中華民国より移入したものを千葉縣で改良したものである。

2b) ツルクビ南瓜（ヘチマ南瓜）var **luffiformis** Hara, var. nov. (Fig. 3)

Fructus subcylindrici ± 40 cm longi ad collum saepe curvati tenuissime longitudinaliter sulcati paullulo rugosi inferiore parum incrassati apice obtusi, hilo parvo elevato, maturitate rubribrunnei pruinosi. Semina oblongo-ovata albida margine brunnescentia paullo undulata 12—15 mm longa 7—8 mm lata. Folia non albo-maculata. In Japonia culta.



第 3 圖

果實は細長く下半が少しく膨んでヘチマ状をなし、しかも普通地上にできた時は頸部で彎曲し、上部半分以上は充實して種子がない。キクザ南瓜とは系統を異にし、葉には白斑なく果の臍は小形で凸出し、*C. Pepo* の影響を受けたものの如くで、特に Summer Crookneck に似て居る。但し果梗、種子等の性質では矢張り *C. moschata* に入れるべきものである。稍晩生であるが强健、豊産で貯藏に耐え、最近可成り普及したが、以前は九州の一部に栽培されたに過ぎず、もと臺灣や中南支にあつた形と云はれて居る。

3) クリカボチヤ（クリタウナス）*C. maxima* Duchesne 1786 (*C. Potiro* Pers. 1807)

果實は通常大形で球形乃至圓筒形をなし、溝なく平滑なものが多く、*C. Pepo* 程の變異はない。Hubbard（ナタワリ南瓜、マサカリ南瓜）、Delicious（カステラ南瓜）、竹内南瓜、中村早生（成金南瓜）、クリ南瓜（甘栗南瓜）、オホタウナス等が本種に入る。Hubbard では果皮は頗る硬くなり貯藏に耐える。この中でクリ南瓜は大正 5, 6 年に東北地方で Delicious の系統分離又は Ohio Squash の自然交配から選出されたとされて居るが、種子が茶褐色を呈する點で、種子が乳白色の他の形とは可成り異つて居る。

又稀にカボチャ南瓜(頭巾瓜, 套瓜) var **turbaniformis** Alefeld 1866 (*C. turbaniformis* Roemer 1846, *Pileocalyx elegans* Gasparrini 1847) と云つて栽培されるものは, 果の先端部が廣く鉢巻狀部分がある。

紙面節約の爲細かい説明を省略した箇所が多いので分り難い點もあらうと思ひ, 次に近年發表された主要な文献を参考迄に列擧する。

南瓜の品種に關する調査. 農事試験場(西ヶ原)特別報告 32-1: 1-36, tab. 1-3 (1921).

Bailey 1929 The domesticated Cucurbitas. I. Gentes Herbarum 2-2: 63-115, fig.

29-64.

// 1930 Three discussions in Cucurbitaceae. 1. c. 2-4: 175-186.

// 1932 Addenda in volume II. 1. c. 2-7: 427-430, f. 183-185.

// 1937 The garden of gourds. 1-134, many figs.

// 1943 Species of *Cucurbita*. Gent. Herb. 6-5: 267-322, f. 140-165.

Bukasov 1930 The cultivated plants of Mexico, Guatemala and Columbia.

Bull. App. Bot. Gen. Pl. Breed. Suppl. Vol. 47: 301-318, 531.

Castetter & Erwin 1927 A systematic study of squashes and pumpkins.

Iowa Agr. Exp. Stat. Bull. 244: 1-135.

Erwin 1931 Nativity of the cucurbits. Bot. Gaz. 91: 105-108.

// 1936 Notes on *Cucurbita moschata*. Iowa State Coll. Journ. Sci. 10: 213-221.

// 1936 Nativity of *Cucurbita maxima*. 1. c. 10: 441-446.

Erwin & Haber 1929 Species and varietal crosses in the cucurbits. Iowa Agr.

Exp. Stat. Bull. 263.

藤井健雄 1944 南瓜. 蔬菜園藝學各論上卷: 152-171, f. 60-71.

石井勇義編 1944 カボチャ屬. 園藝大辭典 1: 459-465.

Jones 1942 Hybrid vigor studies with Cucurbitas and Tomatos. Chron. Bot.

7: 265-296,

菊池秋雄 1947 南瓜屬植物の種類. 育種と農藝 2-11: 305-307.

牧野富太郎 1939 ボウブラ, タウナス, カボチャ. 實際園藝 25-11: 1254-1258.

Millan 1945 Variaciones del zapallito amargo *Cucurbita andreana* y el origen de *Cucurbita maxima*. Rev. Arg. Agron. 12: 86-93, t. 4-7, f. 1.

// 1947 Los zapallitos (*Cucurbita*) de tronco de Sudamérica extratropical. Darwiniana 7: 333-345, t. 1-4, f. 1.

Russell 1924 Identificatfon of the commonly cultivated species of *Cucurbita* by means of seed characters. Journ. Washingt. Acad. Sci. 14: 265.

Vestal 1938 *Cucurbita moschata* found in pre-Columbian mounds in Guatemala. Bot. Mus. Leafl. Harvard Univ. 6-4: 65-69.

Werkenthin 1922 Description and key of the g nus *Cucurbita*. Proc. Iowa Acad. Sci. 29: 281-290.

Whitaker 1947 American origin of the cultivated cucurbits. Ann. Mo. Bot. Gard. 34: 101-111, t. 11-12.

Whitaker & Carter 1946 Critical notes on the origin and domestication of the cultivated species of *Cucurbita*. Amer. Journ. Bot. 33: 10-15, f 1-3.

Zhiteneva 1930 The world's assortment of pumpkins. Bull. Appl. Bot. Gen. & Pl. Breed. 23-3 (1929-30): 157-207.